

さくら第540号

令和 6年12月

# さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7: TEL51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

道  
歩くから  
道になる  
歩かなければ  
草が生える  
みつと

## 『竹の節と思い出』

雪が降り続き、その重みに枝の先までが曲がり、やがて埋もれている竹。それでも折れずに日差しで少しずつ溶け始めるとバサッという音で小枝に積もった雪を一気にはね飛ばすと、何事もなかったかのごとく真っ直ぐに立っている竹。しなやかなバネのような竹には多くの節があります。成長と共に太くなる節の数が増し、より強靱な竹へと育ちます。

かつて小学6年の春に入塾した女子が中学、高校そして大学へと進学し、夏休みや冬休みなどに京都から春江に帰ってくると必ず顔を見せてくれます。

20歳の時には着物姿が印刷されたハガキを見て嬉しくなりました。やがて結婚し長女誕生、お宮参り、小学へ入学、卒業、中学、高校へ進学するたびに家族での記念写真のハガキが手元に届きます。

やがて男子1名と女子4名となり家族7名での年賀状に元気いっぱいの笑顔があふれています。実家に帰省するたびに顔を見せ、成長する子の近況や夫婦の仕事なども話してくれます。令和7年には長女もすでに就職2年目で次女は専門学校へと進み、高校と中学へ進学するなど一人ひとりが新たな道へと羽ばたきます。

これまでの子育てのなかではいろいろな出来事が重なり精神的な悩みもあったと思いますが、その時々を送られてくる便りには前向きにがんばる様子がしたためてあり、家族がまわって進んでいる事が伺い知れます。

このように節目のその時々での家族の行動を記録し残すことはとても大切であり、やがて

子達が独立し巣だっていく時の行動指針にもなります。

人に自分の考えや意思などを伝えるための通信手段は電話、メール、SNSなど多くの方法があり便利で楽な時代です。年賀状もメールが増えて「あけおめ」の省略文字とイラストでおしまいです。このようななか、手紙やハガキに自分の手で文字を書くことがずいぶん少なくなりました。

しかし、たった1枚のハガキに相手への思いを込めた近況などを書き込むわずかな時間でも、それが手書きになると気持ちが増します。

私はハガキや手紙や書類などをパソコンに打ち込む時には必ず辞書を手元に置きます。手書きならなお更のことであり、同音異義語を確認します。現代用字辞典は広辞苑などと違い500頁余のB6版で扱いやすく、速いと早い使い方など直ぐに理解でき便利です。

スマホやパソコンで検索すると即座に理解できますが、すぐに忘れてしまいます。辞書の薄い紙を五十音順に調べるのには時間がかかります。でも、コツコツと丁寧に考えながら調べると長く記憶に残ります。

カーナビはとても楽で目的地まで案内してくれるので、初めて行く場所にはとても便利です。しかし、地図を見て方角や所要時間を調べる事が無いので地図が苦手になります。

日々、電話で互いに話すことで安心したり、ラインやメールで連絡を楽に取ることが出来ます。夏休みの宿題で遅くなるのは読書感想文がいつの年代も同じようです。人に自分の気持ちや要望などを伝え、理解を増すにはまず話す事から始まりますが、内容を正確に互いが共有するには文章に残すことが必要です。そのためには読書も大事であり、まとめるための練習も必要です。

竹の節の一つひとつが強い力となるように、日々の生活を充実させるには節目となるような体験を多く積み重ねましょう。その時々での経験の深さが以後の生き方を左右します。よき記念日を書き残すことで記憶が深まります。

朝の日の  
裾にとどかね  
寒さ哉  
季語  
寒さ  
加賀千代女  
朝日の光が裾までとどかないので寒さごとよ。